

例会日:毎週金曜日  
 例会場:碧海信用金庫本店3F  
 安城市御幸本町15-1  
 TEL:0566-75-8866  
 FAX:0566-74-5678  
 Email:anjo-rc19580206@katch.ne.jp  
 HP:http://www.anjo-rc.org

## 第2975回例会

2018年11月9日(金) 12:30~13:30

司会者:兵藤 幸男君

ソング:「手に手つないで」「四つのテスト」

卓上花:ピンポンマリ・タマシダ

ニコボックス報告:大坪 久乃さん

ゲスト及びビジター: <sup>サワダ</sup>澤田 <sup>キクコ</sup>喜久子様 新美南吉に親しむ会 前代表  
<sup>ツツキ</sup>都築 <sup>ヒデユキ</sup>秀行様 新美南吉に親しむ会 現代表

2018-2019年度RIテーマ:

「インスピレーションになろう」

安城ロータリークラブ会長方針:

「あなたの街でロータリーを！あなたの街からロータリーを！」

- 会長:横山 真喜男
- 幹事:杉山 淳一
- クラブ会報:小林喜司男・服部敦・丸山光夫
- 創立日:S33年1月10日
- RI加盟認証日:S33年2月6日



### ■ 会長挨拶

横山 真喜男会長



### ■ 出席報告

小野内 宣行君

会員	55名
出席義務者	43名
出席	52名
欠席	7名
出席免除者の出席	9名
出席率	86.54%
修正出席率	10月19日 第2973回例会 92.45%

### ■ 幹事報告

杉山 淳一幹事

1. 11/10.11 地区大会です。当日名札とプログラム冊子忘れずにお持ちください。緊急時は(土)杉山幹事・(日)加藤副幹事まで連絡してください。
2. 11/30(金)お楽しみ親睦会の登録料を集金いたします。
3. 米山奨学金特別寄付該当されます方は、11月中に入金宜しくお願い致します。
4. 12/7の例会は年次総会です、全員参加を目指しますので、欠席されませんように宜しくお願い致します。
5. 12/9(日)マリオットアソシアホテルでの会員家族親睦例会の登録料をお願いします。
6. 1/25(金)伊勢神宮参拝移動例会の案内を配布いたしました。
7. 2/15→16(土)グランドティアラ安城にて開催の、インターシティミーティングの案内を配布いたしました

### ◆ 卓話

担当:野村 繁雄君

テーマ「安城の新美南吉」

卓話者 澤田喜久子様 新美南吉に親しむ会 前代表



## 1 「ごんぎつね」のこと

南吉作品が教科書に初めて採用されたのが昭和28年の「おじいさんのランプ」(東洋書籍) ごん狐は昭和31年に  
登載して以来継続して小学校4年生の教科書に採用され、昭和55年度以降全教科書会社が採用(東京書籍、  
学校図書、三省堂、教育出版、光村図書)65年にわたり採用されている  
今や3世代にわたり小学4年生で南吉を知ることになる。この事は奇跡に近い

## 2 「でんでんむしの悲しみ」

皇后さまが平成10年にインドのイビー世界大会にビデオによる基調講演で「橋をかける」—子供時代の読書の思い出  
として南吉の「でんでんむしの悲しみ」をふとした時に蘇る南吉の話としてとりあげられた。

## 3 安城での南吉スポット

- ・「ででむし詩碑」 桜町小学校 半田も含めて第1号碑 南吉没後5年目に建碑  
学校移転に伴い赤松町に移転したが生誕百年に桜町小に戻る
- ・「貝殻の詩碑」 中部小学校 昭和62年 半田の詩碑の縮小版  
半田の「貝殻碑」は昭和36年雁宿公園 半田の1号碑
- ・「牛の詩碑」 安城公園内「文学の散歩道」昭和47年 安城文化協会25周年記念
- ・「百姓屋の詩碑」 新田小学校 平成5年
- ・「寓話の詩碑」 安城高校 平成25年「ででむし詩碑」移転後、全校生徒の投票で選定された。  
詩碑の文字は同校出身の山本祐司氏。
- ・「南吉の下宿」 新田町大見家  
南吉が安城高女に赴任した翌年(14年)から住む。ここから多くの代表作が生まれる。
- ・南吉ピアノ  
アンフォーレ  
ロシア革命前のピアノ(サンクトペテルブルグで創業したピアノメーカーベッカー社製)  
1905年前後製造、今から約100年前のピアノ  
リストやサンサーズ、シューマンらからも高く評価された
- ・南吉が利用した店  
日新堂 博文堂 横田歯科 川本 金魚屋 小林時計店など

### 南吉ゆかりのロシア製ピアノ

このグランドピアノは、童話作家新美南吉(1913-43)が勤めていた安城高等女学校の講堂で使用されていたものです。製造したのはロシアのピアノメーカーベッカー社で、製造番号から1905年前後に創られたと推定できます。安城高等女学校の開校は大正10年(1921)、講堂が完成するのは翌年ですから、このころに中古品で購入されたと考えられます。講堂が建て替えられる昭和32年(1957)まで女学校の後身安城高等学校で使用されました。

その後、市内の個人宅に引き取られ、昭和40年代の中ごろまでは弾かれていました。新美南吉生誕100年の平成25年に安城市が寄贈を受け、1年8ヶ月をかけて大規模な修理が行われました。現在のところ国内では、100年前のロシア製ピアノが使用できる状態で保管されている例は、他にありません。

新美南吉がベートーヴェンなどの名曲を、蓄音機で好んで聴いていたことは良く知られています。ショパンのピアノ曲はまわりに聴くのを勧めたこともあるようです。その南吉が身近に生の音を聴くことのできたのが、講堂にあったこのピアノの音です。音楽担当教員がよくショパンの曲を弾いていたとか、南吉が譜めくりをしたという教え子の証言もあります。安城へ赴任した年(昭和13年、1938)の俳句「講堂に ピアノ鳴りやみ 秋の薔薇」「けどほさやピアノのとどく 秋の薔薇」に詠みこまれたのは、まさにこのピアノのことです。

ロシアのベッカー社は、日本ではほとんど知られていませんが、1841年にサンクトペテルブルグで創業したピアノメーカーです。早くからロシア国内では高い性能が評判になり、やがて著名なピアニストであったリストやサンサーズ、クララ・シューマンらからも高く評価されました。オーストリアやデンマーク、ノルウェー、スウェーデンの王室にもピアノを納め、欧米各地で開かれたさまざまな博覧会でも数々の賞を受けています。

ロシアの代表的な作曲家チャイコフスキーやリムスキー=コルサコフが愛用したベッカー社のピアノは、現在もそれぞれの記念館で保管されています。ロシア音楽が急速に世界の注目を集めるようになる時期に、ロシア国内に広く普及したのがベッカー社のピアノだったのです。しかし、第一次世界大戦が始まると生産が縮小され、ロシア革命(1917)の後には国有化により、ベッカー社の歴史に終止符が打たれました。

19世紀から20世紀にかけてのピアノは、現在のピアノにかなり近いものですが、発展途上の構造や機能も多く、その違いは音にも反映されています。このベッカー社のピアノで聴くことのできるやや小さな音量やこもりがちな柔らかな音色は、この時期のピアノらしい音の特徴といえます。鍵盤の反応やペダルの動作も現代のピアノとは異なり、それなりに工夫した弾き方が求められます。100年前の名だたる作曲家たちが、このような性能=特徴のピアノで作曲し、当時も人々もこの音色で聴いていたこと、さらには新美南吉が安城でこの音を聴いていたことも考えあわせると、このピアノの音を聴くことはとても貴重な体験といえます。